

2012.03.08：平成24年第1回定例会(第7日)

○19番(楠 正信)登壇 私は、公明党の石田議員の代表質問を補足して、教員採用試験について、本市の観光集客の戦略と観光案内ボランティアについて、2点お尋ねしてまいります。

初めに、教員採用試験についてであります。

昨年、平成24年度の本市の採用試験が行われ、2,032人の受験者のうち331人が最終合格され、団塊世代の大量退職により採用枠は幾分ふえてはおりますが、厳しい競争率には変わりがないようです。

3年前、私は学校公開週間で小学校の授業を拝見しました。20代半ばの先生が素晴らしい授業をされ、子どもたちの興味を誘い、子どもたちが集中して勉強しているのがよくわかりました。後でお話を伺うと、この先生は正採用ではなく常勤講師であることがわかりました。偶然にも翌年、同じ学校に伺うことがありまして、その先生のお姿を拝見し、校長先生に、よかったですね、採用試験合格されたんですねと声をかけましたら、校長先生からは、いいえ、ことしも不合格だったんですよとのお返事が返ってきました。私は、2年続けて講師の先生が同じ学校に勤務できることを知りませんでした。あんなに優秀な先生が、学校の校長先生も太鼓判を押すような先生がなぜ採用されないのかという強い思いを持ちました。

そこでお尋ねいたします。平成24年度教員採用試験において講師経験者に対する選考の内容はどうなっているのか、また、受験者数、1次合格者数、2次合格者数はどうなっているのか、お尋ねをいたします。また、講師経験者が受験可能な年齢は本市では40歳ですが、他の政令市では何歳まで可能なのか、お尋ねをいたします。

今回、補足質疑に当たり、3人の校長先生と6人の正教員ではない常勤の講師の先生からお話を伺いました。学校現場には、名人と言われる正教員ではない講師の先生がおられることがわかりました。研究発表校の指定になると御指名がかかり、てきぱきと仕事をこなし、見事な発表をしてくださる講師の先生、厳しいクラスを担当し、穏やかなクラスに変えてくれる講師の先生など、正教員とともに講師の先生方が現場を支えている、これが福岡市の教育現場です。このような正教員でない講師の先生が福岡市の学校には何人勤めておられますか。また、そのうちクラス担任をされておられる講師の先生は何人おられますか、お尋ねをいたします。また、本市正教員と講師の給与、待遇面での違い、そして職務内容、責任内容の違いがあればお示しください。

次に、本市の観光・集客の戦略と観光案内ボランティアについてです。

高島市長の市政運営方針の中で、福岡市の成長のエンジンとなる戦略的な観光・集客に取り組みますとの強い決意が表明され、組織再編による経済観光文化局もいよいよスタートをいたします。本年1月には、中国・上海において、鹿児島市、熊本市、福岡市、3市

合同での観光プロモーションを成功させ、市長の精力的なトップセールスをうかがうことができます。

まず、平成 24 年度の観光・集客の戦略はどのようなプランで進むのか、また、観光都市福岡のまちづくりがどのようなプランで進んでいくのか、お尋ねをいたします。

観光・集客の戦略は、言うまでもなく、人を外から集め、経済効果を上げるためにだけあるではありません。その観光・集客の戦略がまちを生かし、人を生かして、初めて市民のホスピタリティー、心からのおもてなしがはぐくまれていくことになります。進んで自分たちのまちをよくしていこうと奮闘し、おもてなしの心で活動されているのが各都市の観光案内ボランティア協会の皆さんです。今や観光の中心はまち歩きで、市民の文化力が試されています。鹿児島市のガイドつき定期観光コースは 16 コース、熊本市は 12 コース、有名な観光地や名所だけでなく、地域の埋もれた観光資源を生かし、歩くのにちょうどいい広さのまち歩きを提供しています。

本市にはボランティアガイドつき定期観光コースは何コースございますか。また、福岡市観光案内ボランティアさんの構成人数の推移はどうなっていますか。また、年間何人の方を案内されておられますか、あわせてお尋ねをいたします。

福岡に住んでいる人が歴史ある博多のまちをどれくらい知っているのだろうか、案内ボランティアの方々が博多の語り部として立ち上がり、博多情緒めぐりというガイドつきまち歩きを開催して 7 年目を迎えられます。このまち歩きに昨年、観光客の方が何人参加されましたか。また、そのうち福岡市内にお住まいの方が何人参加されましたか、お尋ねをいたします。

また、福岡市内にあるその他の観光案内ボランティア団体が行う案内コースの数、利用者の数を把握されていればお示しください。

以上、1 回目を終わり、2 回目以降は自席にて行います。

○副議長（大石修二） 酒井教育長。

○教育長（酒井龍彦） 教員採用試験についてお答えをいたします。

まず、講師経験者に対する 1 次試験の選考の内容についてですが、講師の経験年数に応じて、通常の一般選考または一般選考の一部試験免除、あるいは教職経験者の特別選考という 3 つの区分のうち、いずれかの区分で受験することになります。

一般選考の一部試験免除は、福岡市での講師経験が 2 年以上の者を対象としておりまして、1 次試験において一般選考受験者が受験する専門教科、教職教養及び一般教養の 3 科目のうち、教職教養を免除するものでございます。平成 24 年度採用試験におきましては、

受験者が 261 人、1 次合格者 86 人、2 次合格者 42 人でございます。

また、教職経験者の特別選考は、他都市などで正規教員経験が 3 年以上または常勤講師経験 5 年以上の者を対象としておりまして、1 次試験は論文及び一般教養の 2 科目で実施をしております。平成 24 年度採用試験においては、福岡市の講師経験者は 93 人受験しておりますが、そのうち 1 次合格者 41 人、2 次合格者 23 人となっております。なお、2 次試験においては、すべての区分で共通の内容で選考を行っております。

次に、講師経験者の受験年齢の上限につきましては、福岡市は 40 歳としておりますが、他の 18 政令市の状況は上限 59 歳というのが 10 市、58 歳が 1 市、54 歳が 1 市、49 歳が 3 市、44 歳が 1 市、39 歳が 2 市となっております。

次に、福岡市立学校に勤務する講師の数であります。教職員定数が確定する平成 23 年 5 月 1 日現在で申し上げますと、常勤講師が小学校 371 人、中学校 179 人、特別支援学校 163 人で合計 713 人、非常勤講師が小学校 128 人、中学校 105 人、特別支援学校 4 人で合計 237 人、常勤、非常勤合わせますと 950 人となります。このうち、学級担任を務める常勤講師は、平成 23 年 12 月末現在で小学校が 221 人、中学校 3 人でございます。特別支援学校につきましては、小中学校と異なり、複数教員で児童生徒のグループを指導しており、基本的にすべての常勤講師を担当というふうに位置づけております。

次に、正規教員と常勤講師の待遇面での違いについてですが、小学校の県費負担教員の場合、まず給料については常勤講師も正規教員と同様に福岡県の教育職給料表の適用を受けますが、格付に違いがあり、経験年数 10 年で両者を比較いたしますと、月額で約 4 万円の差が生じます。また、15 年程度の講師経験で、上限であります月額 27 万 3,600 円に達し、それ以降の経験は給料に反映はされません。通勤手当などの諸手当については、常勤講師も正規教員と同じ取り扱いでございます。なお、年金や健康保険については、加入する制度がそれぞれ異なりますので、掛金や給付の内容に違いがございます。

また、常勤講師の職務や責任については、児童生徒に対する教育に関しては正規教員と同等であります。校務分掌などの分担については補助的業務を担う場合が多く見られません。以上でございます。

○副議長（大石修二） 中島経済振興局長。

○経済振興局長（中島淳一郎） 観光・集客の戦略及び観光案内ボランティアについてお答えします。

まず、福岡市の観光・集客施策につきましては、平成 2 年 3 月に策定した福岡市観光基本計画の理念を踏襲し、平成 15 年 3 月に策定した現マスタープラン、福岡市新・基本計画

に基づき、情勢の変化等をとらえながら取り組みを進めております。また、特に九州新幹線の全線開通等の 2011 年に向けて、官民連携組織であるビジターズ・インダストリー推進協議会において、民間と連携した取り組みを行ってきましたが、同協議会で策定した福岡賑わいのまちづくり戦略 2011 についても平成 23 年度までとなっております。このため、平成 24 年度は、これまでの取り組みを検証するとともに、来年度策定予定の新たなマスタープランを踏まえながら、また民間を含めた幅広い御意見をお聞きしながら、今後の福岡の観光・集客施策の方向性や具体的なアクションプランとして新たな集客戦略を策定することとしております。

次に、観光案内ボランティアにつきましては、各都市でさまざまな形態がありますが、福岡市の観光案内ボランティア制度は、平成 3 年度からコンベンション参加者などの団体客からの派遣依頼に対応する形態で始まっております。現在、福岡市観光案内ボランティアが案内できるコースは、市内全域に 12 コースありますが、パンフレットではモデルコースとして博多の寺社めぐり、天神・中洲、福岡城址・鴻臚館の 3 コースを御紹介しております。

また、定期のコースとしましては、博多町家ふるさと館を出発するコースがあり、毎日午後 2 時のスタートで案内を行っております。人数の推移につきましては、各年度のおおむね 9 月時点で、19 年度 60 名、20 年度 50 名、21 年度 74 名、22 年度 92 名、23 年度は長期間活動がなかった会員への意向を確認したため減少しており、78 名となっております。また、案内人数の推移でございますが、18 年度 512 名、19 年度 3,303 名、20 年度 5,337 名、21 年度 5,271 名、22 年度 5,936 名となっております。

次に、平成 22 年度の博多情緒めぐりの参加者につきましては 1,772 名となっており、アンケート調査によりますと、そのうち福岡市内の方は 65.9%となっております。

また、観光ガイドを行っているボランティア団体につきましては、市内各地で活動されていますが、それぞれの団体が実施されているまち歩きガイドコースの数、利用者数については把握しておりません。以上でございます。

○副議長（大石修二） 楠正信議員。

○19 番（楠 正信） 最初に、教員採用試験についてです。

1 回目でお答えいただいたように、現在、福岡市内で常勤、非常勤合わせて 950 人の講師の方が現場を支えています。小学校に限定すると 499 人の常勤、非常勤講師が派遣され、全教員数が 3,829 人ですから、全体の 1 割以上は講師で現場が運営されています。そして、小学校の常勤講師 371 人の 60%、221 人がクラス担任を引き受けております。1 回目のお答えで、正教員と講師の給与、待遇、職務内容を示していただきました。講師の採用され

る期間は1年間、次の年の採用の約束はありません。給料は73号給が上限で、経験年数が20年、30年と長くなっても月額27万3,600円より上がることはありません。仕事は正教員と全く変わりはありません。通信表の所見書きで遅くまで仕事をしますし、心配な子どもがいれば家庭訪問もします。煩雑な報告やパソコンでの打ち込みなど、職務内容の、講師は教師に準ずると言いながら、頼まれれば嫌とは言えない立場なのです。ベテラン講師の力は、このような不安定な状況ではなく、安定した就業条件の中で発揮されていくべきと考えます。先ほどのお答えのとおり、政令市の中で講師経験者が受験可能な年齢は59歳が一番多く、仙台市、新潟市、千葉市、横浜市など10都市で実施、福岡市40歳制限とは19歳も離れております。福岡市は、19政令市中17番目に低く、しかも39歳と、1歳低い18番目と19番目の岡山市と札幌市は、前年度1次合格者には次年度1次試験免除の特例枠を設けております。政令市中、福岡市は講師経験者に一番不利な採用試験の要件を強めています。教育長、講師経験者の受験年齢制限の引き上げをぜひとも検討していただき、チャンスを与えていただきたいと強く要望いたしますが、御所見をお伺いいたします。

もう一つの問題は、講師の先生がクラス担任をしている場合、なかなか試験勉強に専念する時間がないということです。採用されたいなら講師を受けずに勉強に専念しなさい、そう言われるかもしれませんが、仕事をせずに勉強に専念していただくの余裕がある方は少ないのです。人物は優秀です。クラス担任をして、ほかの先生からも一目置かれ、頼りにされている、即戦力の講師の先生がなぜ採用されないのか。それは福岡市の教員採用試験が筆記試験重視、新卒の現役有利な試験だからだと思います。人物を重視した人物本位の選考となるよう、試験内容の見直しをしていただいておりますが、まだまだ人物本位には遠いようです。今回の採用試験も、大学等新卒者が510人受験し、109人合格されております。試験科目一部免除を受けた講師経験者の倍率が6.2倍、新卒者の倍率は4.6倍と低くなっております。新卒者の合格者が3分の1を占めます。勉強に専念した浪人生と講師経験が浅い1、2年経験者などが3分の1を占めます。残りの100名の枠を700人から800人の講師経験者が合格を目指すのです。他の政令市の中には、教員研修などを通じて教員の資質向上を図ることは難しく、むしろ即戦力となる講師経験者の特例枠を広げて人材を確保しようと取り組んでいるところもあります。教育長、厳しい環境の中で挑戦し続ける講師経験者に対して1次試験の免除や特別選考採用枠を広げるなど、優秀な人材の確保のさらなる見直しを進めるべきと考えますが、御所見をお伺いいたします。

次に、本市の観光・集客の戦略と観光案内ボランティアについてです。

私は1回目の質問で、鹿児島市が16コース、熊本市が12コース持っているガイドつき定期観光コースは本市では何コースございますかとお尋ねをいたしました。福岡市はありますかという質問です。1回目のお答えを精査すると、福岡市にはガイドつき定期観光コースは1コースしかないことがわかりました。最新の福岡市観光客動態調査によると、来福観光客は20代が最も高く、60代以上が2割を占めています。そして、本市を交通アクセスの通過点としてのみ利用する場合がふえているとの調査結果も出ています。

その対策として観光客の知的探究心を満足させるなど、福岡のさまざまな資源が持つ魅力を再発見する回遊の仕掛けが必要であると結論づけています。この仕掛けの一つとして、観光サイト「よかなび」、福岡の食とまち歩きを紹介する福たびが利用されておりますが、このサイトから入り、まち歩きをクリックしても、幾つかある情報の中から最終的に利用できるのは福岡市の観光案内ボランティア主催のこのコース、1コースのみなのであります。1回目でお答えいただいたように、ボランティアさんが案内した方が1年間で5,900人となっております。そのうち15日間の博多情緒めぐりで1,700人を案内されています。年間数でいくと、3カ月以上の人数をたった15日間で案内したことになります。情緒めぐりはすべて定期コースにすることによって、わかりやすく、気軽に参加ができるのです。そして、そのコースには福岡市民の方が6割以上参加されているとお答えでした。ここが大事なんです。参加した市民の方は、堂々と博多のまちの歴史を語る案内人を見て、私もあのようになりたいと思うんです。まちを生かし、人を生かした瞬間であり、地域文化の語り部の継承となっていきます。そのためにガイドつき定期観光コースが必要なのです。観光案内ボランティアさんとひざ詰めで検討し、福岡市の新しいガイドつき観光コースをつくるべきと考えますが、御所見をお伺いいたします。

5年前、私は議会で案内ボランティアさんの必要性を訴え、人が人を引きつけるまちづくりを訴えましたが、お答えいただきましたように、ボランティアさんの数は現在78名と、5年前から18名しかふえておりません。まちの魅力づくりにボランティアさんたちの活動は不可欠であり、鹿児島市や熊本市を参考にすると、その数は200名以上は必要であると考えます。例えば、平成24年度には150名、平成25年度には200名と、目標を明確にして取り組んでいくべきと考えますが、御所見をお伺いいたします。

1回目のお答えで、福岡市内で案内ボランティアをしている別の団体は把握されていないとのことでした。よかなびのサイトにも紹介されていない団体が、観光や教育の観点からまちづくりに取り組んでおられます。その団体数は福岡市内に50とも60とも言われています。福岡の歴史を一人でも多くの市民の方に知っていただくとの活動がばらばらに分散して行われています。このような団体とも連携をし、協議し合うことは、福岡市全体のまちづくり、福岡市全体の歴史と文化を学ぶことになると考えます。お互いの学習の取り組み方法や拠点づくり、そして観光客の休憩所づくりなど、共同で行えば早期に実現するものもあるでしょう。このような各団体との連絡協議会の開催を呼びかけるべきと考えますが、御所見をお伺いします。

これで2回目を終わります。

○副議長（大石修二） 酒井教育長。

○教育長（酒井龍彦） 教員採用試験における受験資格年齢及び講師経験者に対する特例の拡充についてお答えをいたします。

教育委員会といたしましては、これまでも力量ある人材の確保のため、より人物を重視した選考となるよう、受験資格年齢の引き上げや講師経験者に対する特別選考の導入など、選考方法の見直しを重ねてまいりました。福岡市においては今後、教員の大量退職期を迎えることとなり、これに的確に対処していくためにも、地方公務員法に定める平等取り扱いの原則も考慮しながら、特別選考における試験科目や採用枠のあり方を含め、教員採用試験全般についてさらに見直す必要があるというふうと考えております。教員採用試験の受験資格年齢の引き上げについても、現在検討しているところでありまして、今後とも福岡市の教育にふさわしい力量ある人材の確保に向けて努力をしてまいります。以上でございます。

○副議長（大石修二） 中島経済振興局長。

○経済振興局長（中島淳一郎） 観光案内ボランティアについてお答えします。

まず、観光コースにつきましてですが、福岡市観光案内ボランティアは、これまで個別の派遣依頼に対応する形の活動を中心に行ってまいりましたが、今後は定期観光ガイドコースをふやすべきと考えております。また、平成24年度から新しくなる市役所1階ロビーに観光案内ボランティアコーナーを設置する予定でございますが、このコーナーにおいて毎日2人のボランティアの方に活動していただくことになっており、あわせて市役所発の定時ガイドコースも開設したいと考えております。

次に、福岡市観光案内ボランティアの人数につきましては、派遣依頼や活動状況等を考慮し、ボランティアの皆様とも意見交換しながら、適宜新規募集を行い、拡充を図っておりますが、今年度は約30名の方に新しく観光案内ボランティアになっていただくために、現在研修を受講していただいております。来年度以降も新規募集を行い、福岡市を訪れた皆様をおもてなしの心を持って御案内することができる観光案内ボランティアに多くの方々になっていただけるように努めてまいりたいと考えております。

次に、各観光案内ボランティア団体は、まちづくり振興や歴史を学習するためなど、いろいろな目的で設立され、市内各地域で多様な活動をされておられます。議員御指摘のように、他のボランティア団体と連携することは重要であり、今後とも関係づくりを進め、連携を深めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○副議長（大石修二） 楠正信議員。

○19番（楠 正信） 最初に、教員採用試験についてです。

受験資格年齢や力量ある人材の採用など、見直し、検討に努めるとの一步踏み込んだ回答をいただきました。何とぞよろしく願いをいたします。

2年前の福岡市の市長選挙のころ、講師の先生から市長にあてられた1通のメールが福岡市のホームページに掲載されていました。高島市長は御存じないと思いますので、ここで御紹介をいたします。

「私は何年も講師をしている教師です。非常に残念な思いと不思議が募りメールをしています。それは採用試験のあり方です。長く講師を行い、現場で教壇に立ち、多くの実践を積んでいる人物の登用が非常に少ないことです。近年、採用試験について、不正再発防止と信頼回復に向けた取り組みの中の今後の試験のあり方にも、より人物を重視した試験内容への見直しや多様な人材の確保などを打ち出していますが、実際はほぼ点数主義試験、内容を暗記している者のみを採用しています。点数をとるための塾に通い、多額のお金をかける者もいます。2次試験で面接がありますが、1次にパスしなければ人物試験には到達できません。果たして、そんな採用の仕方を続けてよいのでしょうか。私たちは子どもたち一人一人を成長させるために支援していく感性や高い専門性が求められます。1人の個性を大切に、粘り強く指導していく情熱が必要です。1年1回のみでの試験で採用者を決め、本当に正しい採用ができるのでしょうか。そこで、もっと人物を重視する試験を望みます。例えば、現場の声を点数に加算する、指導主事による授業参観、教師のインターン制導入、1次試験にも模擬授業、個人面接を入れるなど工夫は尽きません。ここ数年で採用された者が教師をやめたり、病気になったり、クラスがうまくいかなかったりと、現場では目にします。さらに、ことしの採用試験日は成績表をつける追い込みで忙しい終業式前日の実施でした。講師経験者には不利としか言いようのない実施の仕方です。また、ことしも現役大学生や1、2年目の講師の採用が目立ちます。私たちは教師として免許を取得し、子どもが楽しい、わかるという授業を日々実践し、親や子どもから信頼を置かれる現場での姿が何一つ加算されない現実が不思議でたまりません。福岡市の未来を担う子どもたちを育てる教師の採用の仕方について、市長さんの御意見をお聞かせください。」というメールでした。

メールの文章の行間には、認めてもらえない悔しさがにじみ出ていると感じました。今回お話を伺った6人の講師の先生方も同じ境遇です。来月の4月には、また契約をし、同じ学校で担任を任される。この講師の先生方の奮闘を思うと胸が痛みます。福岡市の教育現場の実情と福岡市の大きな意味での人材確保の観点から、高島市長がどのように感じら

れたのかを御所見をお伺いして、この質問を終わります。

次に、本市の観光・集客の戦略と観光案内ボランティアについてです。

1回目のお答えで、平成24年度は観光・集客の戦略として福岡市全体のプランも、民間と共働で取り組んでいるビジターズ・インダストリー推進協議会のプランもないとのことでした。今からさまざま取り組んできたことを整理し、戦略を練っていくとのことのお答えです。

4年前、ビジターズ・インダストリー推進協議会の実行計画、プログラムの説明を受け、感動したのを覚えています。このとおりになったら福岡はすごいまちになるなあと感じておりました。九州新幹線が開通し、人の流れも観光客の描く各都市のイメージも大きく変化している真ただ中で、平成24年度の観光・集客のプランが平成15年策定の基本計画を受けた実施計画だけでいいのだろうか毎日考えております。ビジターズ・インダストリー推進協議会の今年の幹事会の中でも、地元企業のトップの方々が、一日も早く福岡市の骨格となるプランをつくるべき、民間と行政の役割分担を明確にすべきと強く要請されたとお聞きしております。福岡市は、人が集まる地理的に優位なこと打つ手が一手遅くなっているのではないのでしょうか。高島市長が本部長となり、福岡市の観光・集客の戦略を一日も早くつくり上げていただきたい。また、市長が思い描く本市の成長戦略、観光都市福岡の戦略とはどのようなものなのか、最後にお尋ねをいたしまして私の質問を終わります。

○副議長（大石修二） 高島市長。

○市長（高島宗一郎） まずは観光からですけれども、都市の成長と暮らしの質を高めるために、将来を見据えて都市の成長エンジンをつくって、持続的に活力を生み続ける都市づくりを進める必要があって、そのためにも、まずは短期的にも効果が非常に高い観光・集客、これに力を入れていきたいというふうに考えております。

そこで、平成24年度に新たな集客戦略を策定することになっているわけなんですけれども、福岡のさまざまな歴史資産を初めとして、これまでのアジアとの交流によって蓄積された財産、そしてまた豊かな自然などの魅力に磨きをかけますとともに、観光案内ボランティア活動の充実など、まちの魅力づくりに取り組むことによって、まちの回遊性というものをしっかり高めていく、また、アジアの人々の関心を引きつけて交流人口の拡大につながるような戦略をしっかりとつくりたいというふうに考えています。また、この新たな集客戦略の策定はもちろんですけれども、民間とか、それからいろんな団体、ボランティア、そういった皆さんの役割分担のもと、オール福岡で戦略が実行できるように、楠先生おっしゃるとおり、幅広い御意見を伺いながら、体制づくりも含めて、私も先頭に立って、

スピード感を持って、この戦略づくりに取り組んでいきたいというふうに考えております。

それから、教員の採用についてですけれども、2年前にホームページに載っていたというお話を今じっくりと先生の言葉を通して聞かせていただきました。福岡の教育というものが多くの正規の教員だけではなくて、大勢の講師の皆様によって支えられているということを、メールを聞きながら、改めて感じるとともに、大変感謝の気持ちでいっぱいでございます。また、その行間の中には悔しい思いが込められているということも、ひしひしと感じたわけでございます。子どもたちの将来を担っていく上では、やはり先生の愛とか情熱とか、こういったものって、やはり物すごく大きいというふうに私自身も感じております。そのためにも、そういった教員をどういうふうに採用していくか。もちろん、先生の教える能力とか、こういう情熱だけではない部分ももちろん大事なんですけども、そういうプラスアルファの部分をどういうふうに採用していくかというのは非常に大事だというふうに思っています。そうした意味で、教員の人材確保については、当然、教育委員会が人物重視の採用に努めているというふうに聞いておりますが、やはり筆記試験とか、こういったものではなかなかはかりにくい、先生の教育への愛、情熱、パワー、それから今の講師の先生のようなこういった部分という、そういう人物重視の、より採用がしっかり行われるように、これは私としてもしっかり教育委員会の取り組みというものを支援していきたいというふうに思いました。以上です。